

# SPECIAL



かみ合わなくなった情熱  
すり減らした愛情

何かをあきらめ  
何かに焦っていた日々、

そんな日常に見切りをつけて  
旅に出たいと思っていた。

たぶん、ずっと前から…

Specialな日に  
Specialなクルマで  
Specialな旅に出た。



# SPECIAL





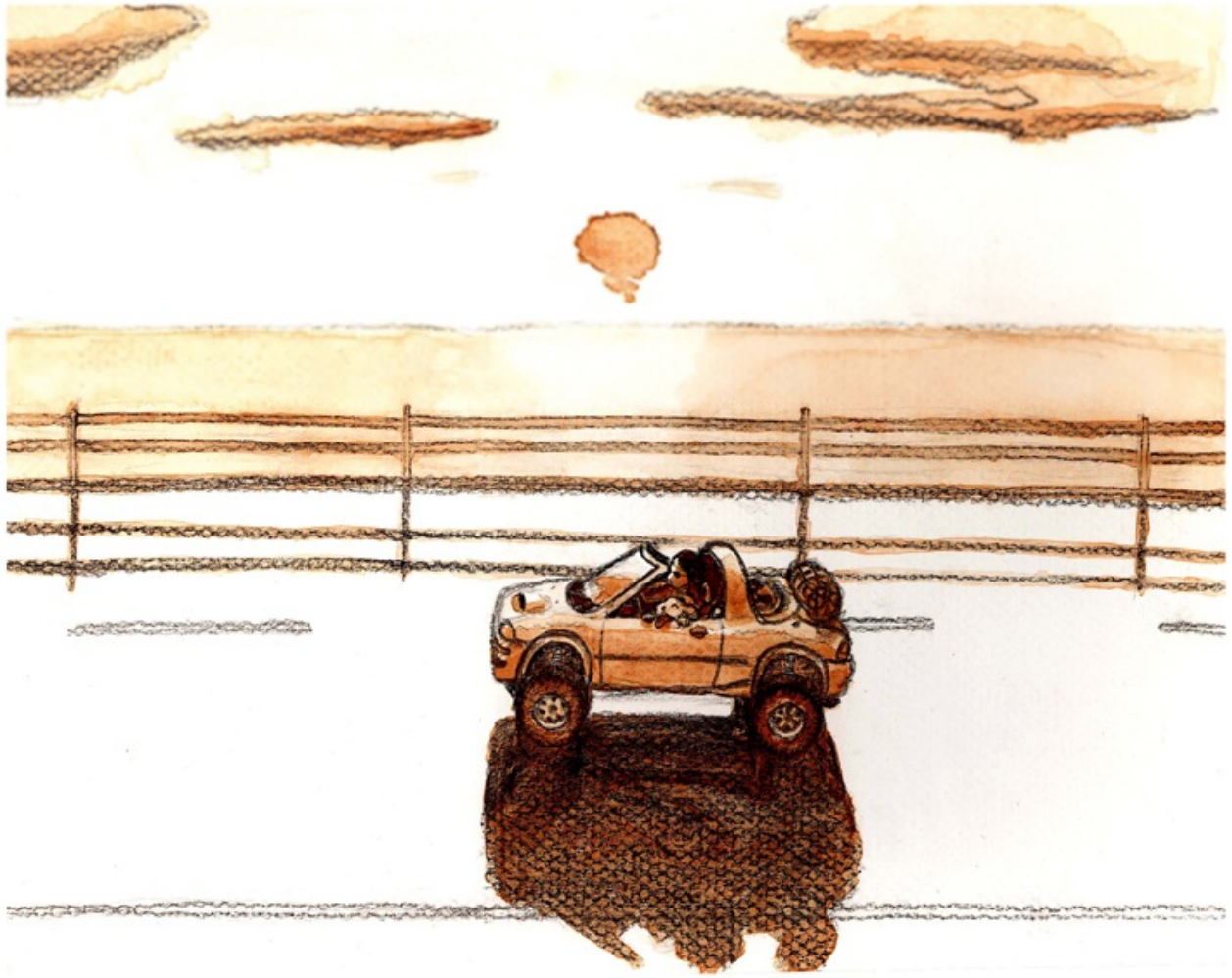
今となっては何が原因だったか  
なんてどーでもいいコトだけど、

気が付けば退職金のほとんどを注ぎ込んで  
17のSpecialなクルマを造ってた。

たぶんこの日の為に…

お前も独りなんか？  
一緒にいくか…。











時おり、ふと考える…

何が良くなかったんだろ？

と…、

やるべき仕事は分かっていた。

でも

「こんなの誰も望んじやない」とも思っていた。

誰もが喜んでくれる仕事が出来なかった。

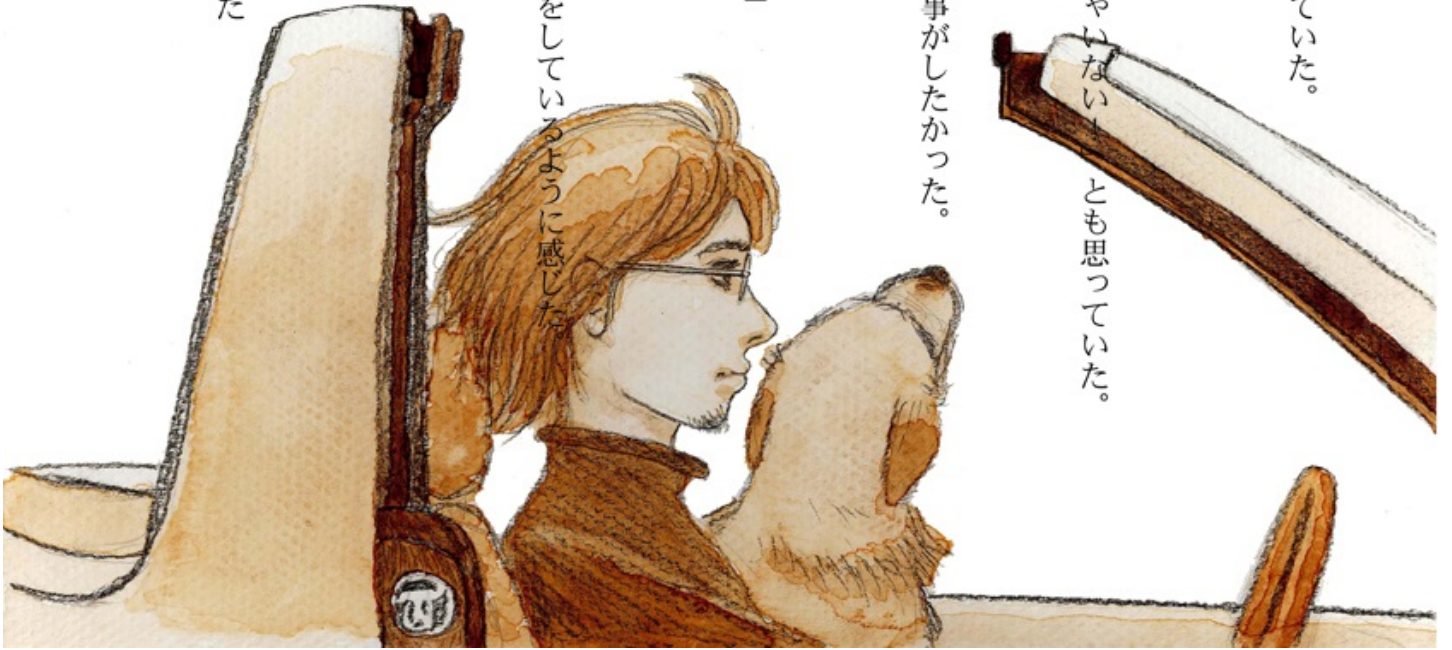
「なんでいつも俺が？」

皆が責任のなすり合いをしているように感じた

毎日がとても苦痛で

ため息ばかりついていた

あの頃…



『頑張る』って何だろ？

無茶なスケジュールをこなす事？

体調を崩しても働き続ける事？

家と職場、往復だけの生活。

疲れきって寝に帰るだけの家。

泥のように眠るだけの休日。

居場所のない…温もりのない家庭。

「結局、自分の事しか考えていないじゃない。」

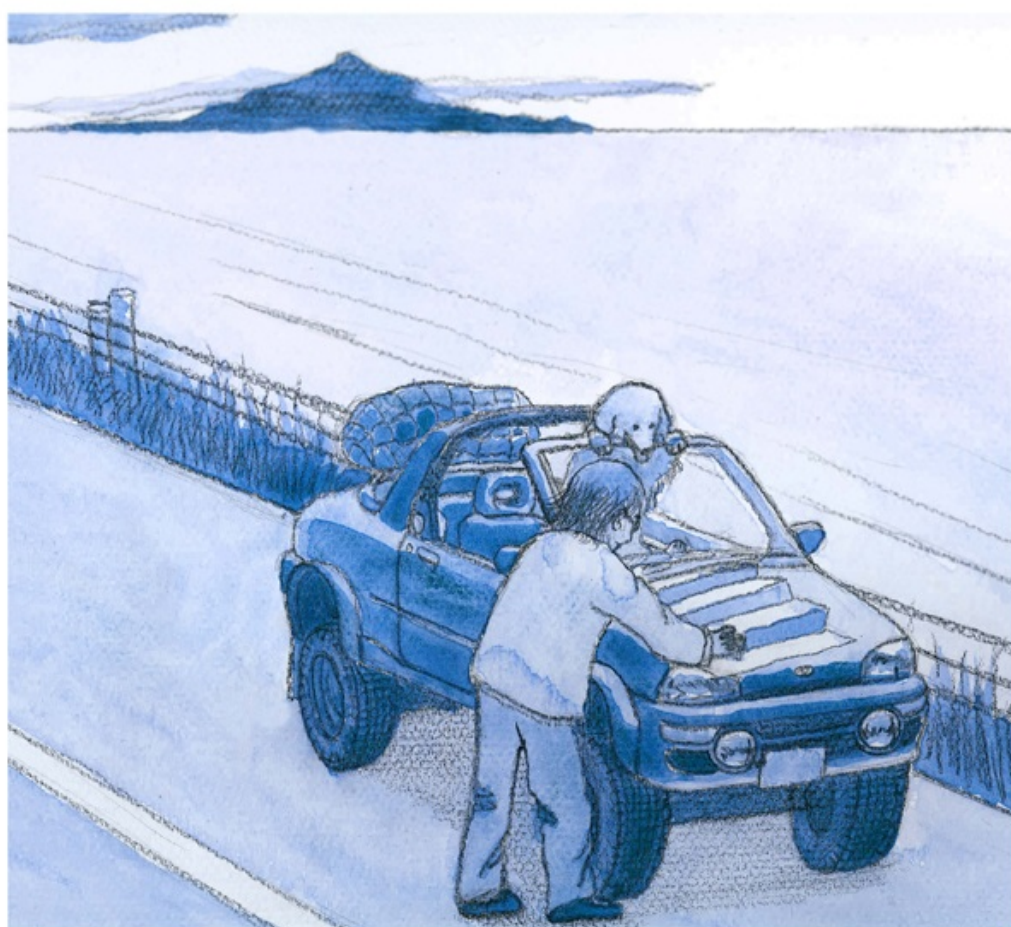




もう  
いいよね…。



時がゆっくり流れるのを感じた。  
木や風や日射しが愛しく思えた。  
心にゆとりが戻ってくるのがわかった。





こんな日がずっと続けばいい…

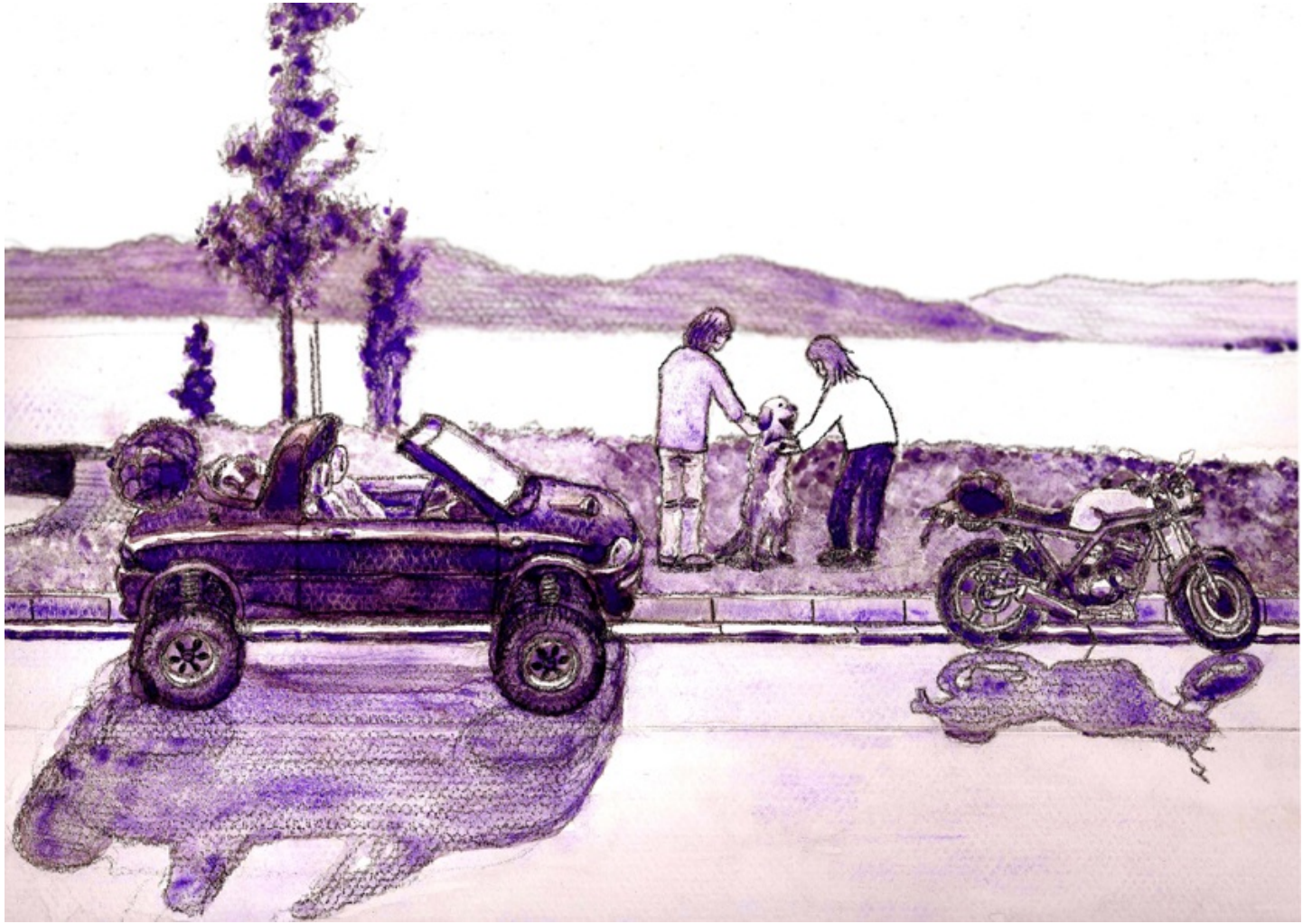




いつも自分の考えだけを

押しつけてきた…

そんな気がする…



「この方が効率的なのに…」と、

仕事の進め方にしても

日々の暮らし方にしても…

それが正しい事なんだと

自分にも言い聞かせて…。







『いい生き方』って…

何だろ……？



………  
幸せつて……

なんだろう……。





それは微笑ましい光景であり

叶えられなかった寂しさでもあり…







忘れていた何かを思い出していた。

とても懐かしい…

とても大切だったことを…







乾いた地に水が染み込んでいく…

そんな感じだった。

やすらぎだけじゃない温もりを感じていた…。

それまでずっと

聞えていた言葉が不意にこぼれ落ちた…



「寂しかった…」





もしかすると…

また…同じ過ちを繰り返すだけなのかもしれない…



それでも…



…  
もう  
一度

もう一度…  
信じてみたい…。



Specialな日に  
Specialなクルマで  
Specialな旅に出た。

そしてもうひとつ、

とびっきりの

Specialな日が…。

Specialな日々…



それは…

一度きりの人生…。

